



命の大切さ、食を考える～お米作り

1日の新米パーティーで、年長さんの本年度の長期間にわたるお米作り活動にピリオドを打ちました。

5月の籾まきから始まり、5～6センチに成長した稲苗のバケツ植え、6月から9月までの水の管理、10月の稲刈り、数日乾燥させた後、牛乳パックを使った脱穀、すり鉢とソフトボールを使った籾摺り、5合瓶と棒を使った精米、そして、出来たお米でご飯を炊き、年少さんや年中さんに炊き立てのご飯をお裾分けして5か月にわたる息の長い活動を終わりました。

小学校によっては、5年生が社会科の農業学習で、近くの農家の田んぼを借りて米作りを行います。子どもたちの主たる活動は、田植え、稲刈りです。田んぼの水の管理は、子どもたちや学校ではできないので農家の方へお願いし、脱穀や精米は、農協や専門店に頼んで、最後に、学校の調理員さんが、でき上がった米を給食室で美味しく炊き上げ、学校全体で収穫祭を行っています。小学校によっては、1人1ペットボトルで米作りを行っている学校もあるようです。

その点、本幼稚園は、子どもたち自身が、籾からお米を作り始め、簡素ではありますが、すべての工程を経験できます。米ができて上がるまでに長い時間がかかることを知った子どもたちは、八十八の手が掛かるお米を一粒も無駄にしないように、また、命あるものを大事にしようとする気持ちを強く持ったようです。



今年も竹馬名人に挑戦！

先月29日に恒例の親子竹馬づくりが実施され、今年も、年長さんの竹馬乗りが始まりました。竹馬づくりには、毎年のことですが、お父さんだけではなく、お母さんやお祖父ちゃん、お祖母ちゃんの参加もあり、家族揃って年長さんを応援する姿が見られ大変うれしく思います。事前に、全員で竹馬づくりの練習をしますが、初めて年長担任を経験する高原、白土の両名は、念入りに作り方や作り方の説明を練習し、保護者の方からのどのような質問にも対応できるように学習会をして臨みました。お父さん方は、日曜大工で慣れているせいでしょうかペンチ



を扱う手もスムーズですが、お母さん方は、針金を曲げるのに少々、苦勞されていたようです。出来上がったら早速、ベランダや園庭で竹馬乗りの練習が始まりました。

今、年長さんの中に、1月の披露会へ向けて練習に熱心に取り組んでいます。全く竹馬に乗れなかった子どもが、友達や先生に支えてもらい、数日で歩けるようになっていきます。足の指には、皮が剥けた後のテープが、子どもの努力を物語っています。全く乗れなかった子どもでも、さくら組の端からすもも組の端まで歩けるようになり、長足の進歩に感心します。子どもの熱意に私たち教師は応援せずにはおれません。披露会をお楽しみにお待ちください。

入園希望の最大の理由は響流の森？

来年度の入園を希望される方の願書受付を11月1日に行い、面接を2日と4日に行いました。どこの家庭でも、事前に、名前や年齢を大きな声で言えるように練習してきたようです。練習通りにできた子、恥ずかしがったり緊張したりして思うように言えない子がいました。中には、東京で見られる「お受験」と同じような捉え方をされ、好きな食べ物や好きな色、好きな乗りもの等に応える練習をされて来た方もおられました。保護者と分かれて、ぱんだ組で控えている子どもたちの遊んでいる様子を見に行った折に、子どもたちの方から「私(僕)の好きな色は黄色です」「私(僕)の好きな食べ物は(焼き)肉です」と応えてきたのには驚きました。それではと、本番の親子面接の折に、「好

きな色は何色ですか?」「好きな食べ物は?」と尋ねてみると、同室で遊んでいた子は同様の応答をし、成程と思いました。また、普段とは違うお母さんのおしゃれな格好で、一層、緊張を高めた子もいました。

入園希望の大きな理由は、次の通りでした。

- ①都会にありながら、響流の森をはじめ自然に恵まれ、子どもの遊びを大事にしている。
 - ②先生方が、一人ひとりの子どもに対して、きめ細かく、温かく、優しく見守っている。
 - ③両親のうちのどちらかが本園の卒園児で、子どもにも同じような経験を味わわせたい。
- 私たち職員一同、子どもや保護者の期待に応えられるように研鑽を積んで参りたいと思います。